〔資料1〕

平成10年6月2日

第1回超深地層研究所跡利用検討委員会
議事録〔要旨〕

日　時：平成8年8月13日（火）10:30～12:40
場　所：瑞浪市総合文化センター
出席者：　委 員 長　加藤　晃（岐阜大名誉教授）（入院の為、欠席）
　　副委員長　髙嶋芳男（瑞浪市長）
　　副委員長　岩垣儀一（県企画部長）
　　副委員長　植松邦彦（動燃副理事長）
　　委　　員　安藤富夫（土岐市助役）
　　委　　員　牧野政芳（瑞浪市議会議長）
　　委　　員　和田全弘（土岐市議会研究学園都市対策特別委員会委員長）
　　委　　員　安藤秋義（瑞浪市連合区長会長）
　　委　　員　加納ちよ（瑞浪市連合婦人会会長）
　　委　　員　土本皖一（土岐市連合自治会連絡協議会会長）
　　委　　員　小木曽満智子（土岐市連合婦人会会長）
　　委　　員　棚橋　普（土岐県事務所長）
　　委　　員　有本建男（科学技術庁原子力局廃棄物政策課長）
　　委　　員　坪谷隆夫（動燃プロジェクト参事）
　　委　　員　大和愛司（動燃企画部長）
　　委　　員　長尾昭博（動燃総務部長）
　　委　　員　安藤久隆（動燃東濃地科学センター所長）
　　事務局　　動燃・岐阜県・瑞浪市・土岐市担当室課長　他
　　プレス　　ＮＨＫ、東海テレビ、ＣＢＣ、名古屋テレビ、毎日、読売、中日
　　　　　　岐阜新聞、東濃新報
　　傍聴者　　17名

1．開会
委員紹介（加藤委員長欠席〔検査入院の為〕）
髙嶋瑞浪市長が委員長を代行

2．挨拶
髙嶋委員長代行（瑞浪市長）の挨拶

・市民の不安を払拭するために四者協定を結んだ。この協定書に基づき、跡利用検討委員会を設置した。超深地層研究所の跡利用をどうするかをこの場で決めることがその証明になる。
・地元月吉区の代表にも参加を要請したが、もう少し時間が欲しいということで今回は参加が見送られた。今後とも参加を要請していく。
・地層科学研究の推進には、今後も動燃の誠意ある対応を望みたい。

・地元振興にも役立つ研究施設として欲しい。
・本委員会は全面公開とする。

植松副委員長（動燃副理事長）挨拶

・地元の理解に感謝する。地元住民が不安を抱かない研究所計画となるよう、各委員には忌憚のない意見をお願いしたい。

3．各議事項目における主な質疑

(1)跡利用検討委員会の設置について

・２０年後の跡利用だけではなく、研究期間の途中でも地元の要望が採り入れられるものが有れば、積極的に検討して頂きたい。〔いろいろ折り込めていきたい〕
・跡利用委員会の中に学識経験者を入れ、各テーマ毎に学識経験者の委員就任をお願いしたい。〔広い分野でまた特に地元の先生方の参加を得ていきたい〕

(2)超深地層研究所計画概要説明

・計画について以下の４点について伺いたい。
①地震研究の今後の進展について。〔地震研究機能を有する拠点となり得るとの考えから検討しているところ〕
②跡利用として無重量研究所とすることについて。〔将来の検討事項としたい〕
③開かれた研究施設の有り方について。〔内外より多くの研究者の参加と国際交流の視点を含め、研究者の滞在施設の設置も検討している〕
④1,000mの立坑を小中学生の学習の場として活用できるガラス張りのエレベータの実現に向けての研究について。〔指導と協力をいただいて検討していきたい〕
・研究所周辺のアクセス整備が必要と思う。計画があれば教えて欲しい。〔地元のご理解と協力が必要であり、ご指導をいただいて検討していきたい〕
・深地層の研究で地場産業に貢献できるものとか、各研究の反映や計画の内容について、更にわかりやすく具体的に説明して欲しい。〔本日用意した資料やビデオでご説したが尚更に努力していきたい〕
・一般の立場では専門用語は理解し難く、もう少し理解を深めるため、勉強会を開くなどして欲しい。〔お時間をいただいて早期に実施したい〕

(3)跡利用検討委員会の今後の進め方について

・委員の中には地層科学研究の現場を見ていない人がいるので、東濃鉱山や正馬様洞用地を見学する機会を設ける必要がある。〔東濃鉱山の視察は早期に実施したい、また、今後年１回は用地の状況を見ていただくことを予定したい〕
・これなら絶対に放射性廃棄物が持ち込まれないと住民が安心するような跡利用の具体策を示すことが必要である。〔例えば地震研究のように10年、20年では終わらないような長期にわたる研究利用もその１つと考えられる〕
・中で何が行われているのかが常にわかる仕組みが重要であり、研究所の一部を公開して市民の憩いの場とする等を検討して欲しい。〔東濃は動燃内で核物質を使用していない唯一の事業所であり、広く開かれた研究を進める上で最適なところ、超深地層研究所を世界に注目される研究所として育て、地層科学研究の終了後も、より広い分野の研究が継続されていくようにしたい〕

以　　上